

高大連携による観光実践プロジェクト

団体名●石川ゼミナール／代表者名●石川美澄（経済学部地域システム学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

本活動は、石川県立金沢商業高等学校観光サービスコース（以下、金商高校）と連携しながら、石川県内の観光振興ならびに観光を通じた地域社会の課題の改善に取り組むことを目的とした。この背景には、近年の観光を通じた地域経済・地域振興への期待度の高さ、高等学校（商業科）における科目「観光ビジネス」の導入、高校・大学という垣根を越えた教員同士の観光教育に関する意見交換の場の必要性、北陸新幹線の敦賀延伸等がある。

活動内容

初めての試みとなった今年度は、南加賀エリアの観光資源を組み合わせた旅行商品造成を行い、生徒・学生間の意見交換や中間発表、モニターツアーの実施を通して、地域社会が抱える課題の発見やその改善方法について検討した。具体的なテーマは、①子どもの旅行・レジャーの体験格差、②農業・観光業の人手不足問題、③製造業を中心とした産業観光、④子育て世代の旅行のしづらさの4つとした。

このプロジェクトに参加した主なメンバーは石川ゼミ2年生（20名）と金商高校3年（13名）だった。5月の両者顔合わせや7月の合同フィールドワークを経て、複数のモニターツアー案を作成し、その中からメンバー内で最も得票数の多かった2案（以下、石川ゼミツアーと金商ツアーとする）をモニターツアーとして参加者を募り、催行した。

表1：主な活動内容等

時期	主な活動内容・学生等の参加人数
5月	大学生・高校生の顔合わせ（学生11名[Zoom参加含む]、生徒13名、教員2名）
7月	合同フィールドワークの実施：モニターツアーの下見1回目（学生20名、生徒12名、教員2名）
9月	モニターツアーの下見2回目（学生2名、教員1名）、モニターツアーの参加受付開始
10月	モニターツアーの実施（学生6名、生徒6名、教員2名）

※なお、5月分は「地域連携による地域貢献活動」推進事業の実施前の活動となる。

成果、結果の考察

2024年10月5日に実施した石川ゼミツアーにはモニター参加者4組12名と学生6名が、金商ツアーには6組19名と生徒6名が参加し、好評を得た。

また、学生からは、「高校生の積極性に非常に刺激を受けた」、「プロジェクトとは関係ないけど、高校生から大学での学びについて聞かれて、改めて自分の大学生活について考えることになった」という意見が聞かれた。金商高校の生徒からは、「大学生との意見交換を通じて、自分たちでは気づけなかった視点やアイデアを得ることができた」「大学生から将来についての話を聞いて、自分の進路について改めて考えるきっかけになった」という感想があった。



写真1：合同フィールドワーク



写真2：モニターツアーの様子のふりかえり

今後の課題、展望

今回の取り組みは、金商高校の荒木田先生をはじめ、高校側と「観光教育をテーマに高大連携できないか」という議論を重ねるなかで始まった。高大連携が実現できたという意味では、地域貢献の一端を担えたと思われる。一方で、プロジェクト全体を振り返ってみると、教員側は日々の業務に加えて、合同活動時間の調整やすり合わせ、進捗報告、予算管理等で手一杯であった。また、学生も生徒も、本活動を通して旅行商品造成という視点から地域社会の課題に迫るという活動が多少なりともできたのではないかと考えるが、石川県の観光振興に貢献できたかという点、それはやや課題として残った。